



はまとな魅力発見プログラム

～つながる町づくり、人づくり～

2009



C班（江川、加藤、上村、佐藤）企画書

「ロッキントン・フェスタ」(仮)企画書

概要

「自然との共生・地域間交流」をテーマに、浜頓別の雄大な自然を活かしたお祭り。地域活性化、地域間交流とともに、環境配慮を細部まで行き、環境保全の啓発も目的とする。

目的

音楽を用いた地域活性化と地域間の交流。特に若者同士の交流を重視し、交流が出来るような場を設ける。毎年行われるようなものを目指す。

日程

2010年

場所

クッチャロ湖畔・体育館（冬季）←駐車場 120台、移動式観覧席 240席・野球場（夏季）

対象

様々な年代（第1部）、30代以下の若者（第2部）。想定参加人数 1000人。

概要

継続事業とするために既存のお祭りに組み込む。2部構成とし、第1部は戦隊モノのショーやゲーム大会、ミスコン（ミスターコンテスト）など地域住民主体の企画を行い、第2部は歌を始めとしたステージ上でのパフォーマンス（地域住民以外のパフォーマンス）を行う。著名人・有名人のエコトークショーなど、浜頓別の自然の豊かさを参加者に意識させるような企画も盛り込む。はまとな2010の大学生参加者は主に東京一北海道の連絡を担うイベントスタッフとして動き、現地スタッフを集める。

環境への配慮

屋台の出店はなるべく地産地消を実現するようにする。割りばしは間伐材を利用したものを使用したり、紙容器ではなく、再利用可能なプラスチック容器を使用し、排出ゴミの削減を目指す。ブースの一つとして、浜頓別の自然環境やエコを意識させるものをつくる。（写真展やエコクイズなど）

また、各設備に使用されている電気エネルギーが風車何回転分かなどを表示し、クリー

ンエネルギー（はまかぜちゃん）の有用性を認識させる。今ある自然を保全し、かつ有効に活用しながら、持続可能な社会の形成を目指す。イベント終了後には、参加者全員で海岸やクッチャロ湖の清掃活動を行う。収益はクッチャロ湖の保全に使用する。

宣伝方法

インターネット、雑誌投稿、ケーブルテレビ、新聞、ビラ、他のエコ・フェスタとの協力

「はまとんたんぽぽプロジェクト」（浜頓別を対象にした冊子）企画書

概要

冊子のはまとん 2010 の大学生参加者が作成する。手順は地域住民の方に思い出の場所とその場所にまつわるエピソードを聞き取りし、ポストカード等、物として出現させ思い出を可視化する。作成した冊子を祭りで無料配布する。ページ数は50ページほど、年刊出版。郷土史の史実に基づかない部分を特化したようなもの。また、制作過程も重要視する。インタビューや対談を通して、人と人とのつながりの大切さ、素晴らしさを実感してもらいたい。

目的

地域住民にインタビューすることで町という場所を意識させ、振り返ってもらう。主観的なエピソードをポストカードに載せることで客観的にし、また共有することで町の一体化を図る。

対象

町全体

なお、「はまとん魅力発見プログラム 2009」で既に C 班の成果物として、一部分は作成済みである。